

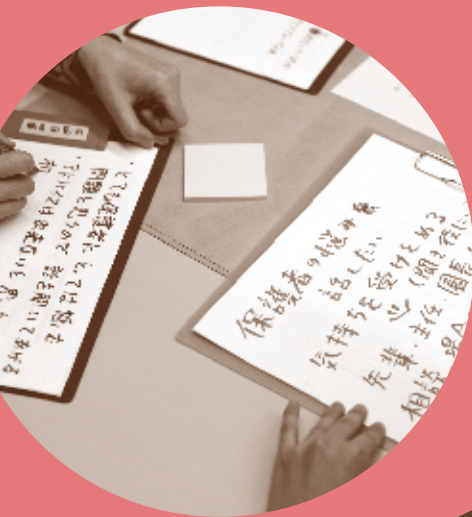


2010(平成22)年度
文部科学省委託
「幼児教育の改善・充実調査研究」

都道府県や市区町村で
保育者対象の
研修を担当する方へ

保育者研修 進め方ガイド

—— 地域の子どもの健やかな成長のために ——






- 本ガイドは、都道府県や市区町村で、幼稚園や保育所等の園長・所長や保育者（教員・保育士）を対象に、研修を行う職員のために作りました。
- 研修計画を立案・実施するうえでの考え方や工夫等をまとめています。地域の実情に応じて、ご活用ください。



保育者研修 進め方ガイド

— 地域の子どもの健やかな成長のために —

CONTENTS

Introduction はじめに	4
本ガイド刊行に寄せて	5
幼児期の教育に必要な専門性	6
保育者研修の必要性	8
受講者にとっての研修の意義	9
研修担当者の3つの役割	10
 指導主事へのインタビュー 「幼児期の教育に、初めてかかわったとき」①②③	11
Action1 研修の計画を立てる	14
保育者研修の種類	15
保育者の研修受講の現状を知る	16
地域の現状と課題を把握する	17
保育者に求められる9つの専門性	18
研修の計画を立てる	28
 指導主事へのインタビュー 「研修を相互に乗り入れる工夫」 「研修を周知する工夫」 「私立幼稚園の教員が参加しやすい研修にするための工夫」	33
Action2 研修を実施する	36
日時と会場を決める	37
講師に依頼する	38
研修の方法を決める	39
実施にあたり、工夫する	40
記録をまとめ、活用する	41
 指導主事へのインタビュー 「幼保合同研修を行う5つのポイント」 「研修を実践につなぐ工夫」	42
Action3 研修を振り返る	44
研修を評価し、次の研修に生かす	45
参考資料	46
ビデオカンファレンス用の映像教材	47
幼児期の教育にかかわる資料等	49
研修手法	50
ビデオカンファレンス・保育観察・ロールプレイ・ファシリテーション 参加型研修を成功に導く「ファシリテーション」のポイントとは？	58

※本ガイドは、文部科学省の「幼児教育の改善・充実調査研究」による委託業務として、ベネッセ次世代育成研究所が実施した平成22年度「幼児教育の質を高める教員等の研修手引きの作成」の事業の成果物です。本ガイドの複製、転載、引用等の際には文部科学省に事前に連絡をいれてください。

刊行のことば

地域の子どもの健やかな成長のために、
幼児教育の質を維持・向上させることは重要な課題の一つです。
園及び地域における幼児教育の質の向上には、
保育者自身の研鑽^{けんざん}が大切であることは言うまでもありません。

しかし同時に、保育者の意欲や姿勢を後押しし、自ら学習に向かったり、
互いに学びあうための支援や研修機会の保障などの条件整備も重要です。

それを実現できるのが地域の幼児教育行政であり、
行政にはその責務があると言えます。

地域の幼児教育の質を高める核となる保育者研修のあり方について、
一緒に考えてみませんか。

※以下に掲載しているのは、保育者研修を主催する行政職員の声です。

この他にも、本ガイドでは様々な自治体の指導主事等へのインタビューを紹介しています。

(本ガイドでは、幼稚園や保育所等の園長・所長、教員・保育士を対象にした研修を「保育者研修」と記述しています。)

研修の成果を
実感しています

幼保小の
合同研修を通して、
両者の理解が
深まってきた



保育者対象の研修は様々な団体で行われていますが、特に小学校との連携についての研修は、行政の強みを発揮できる領域であると考えています。そのため当県では、幼稚園・保育所の年長児担任と全小学校の1年生担任を対象に合同の研修を行っています。この研修では、規範意識や交流活動などの具体的なテーマで協議をしています。

研修を始めた当初は、「なぜ幼稚園（保育所）は遊ばせているだけなのか?」「せっかく園でここまで育てたのに、小学校に入ったら…」という意見が多く出ました。このことにより、幼保の保育者と小学校教員間の教育観や子ども観のずれが明確になりました。

しかし数年をかけて研修の回数を重ねることで、受講者がともに子どもの発達に目が向くようになったり、子どもをどのように育てたいのかという共通の視点や目的がもてたりと、両者の垣根が低くなっていることを実感しています。まだ課題はありますが、保育者、小学校教員からともにこの研修に対して「幼稚園や保育所、小学校についての理解が深まった」という意見が多く聞かれるようになり、研修の成果を感じています。